

活動： DTMH, Faculty of Tropical Medicine, Mahidol University

期間： 2005 年 4 月 ～ 2006 年 3 月で終了（斎藤 若奈）

2005 年 4 月からマヒドン大学(バンコク)の postgraduate Diploma of Tropical Medicine and Hygiene コースに参加しています。今年は、32 名の医者が 15 カ国より集まりました。文化交流のみならず、いろんな国の医療事情を聞いたりするのは大変面白いです。これまで NGO など海外の医療活動の経験がある人も多く、それぞれの経験を発表してもらったりもしています。

DTMH を取得できるコースはロンドンや、ハンブルグにもありますが、Mahidol 大学の利点はなんと言っても熱帯地域にあることでしょう。DTMH を取得する期間も 6 ヶ月と長く、僻地で自分一人でも診断できるようになる！ことを目標に、顕微鏡実習時間などの時間が多くとってあります。また、期間中に 3 回のフィールドトリップがあり、フィールドでマラリア・便検査などを行ったりする予定です。昆虫学などの細かい暗記などが以前は多かったようですが、毎年の生徒の要望により臨床的な面をより重視するカリキュラムに変わってきているようです。隣には付属病院があり、患者さんを見せてもらうことも出来ます。ちょうど今は雨季が始まってデング熱やマラリアのシーズンに入り、重症患者さんが入院しており、治療経過も見せてもらっています。



講義、文献のレビューは毎年アップデートしてあります

便虫卵検査実習，一つのサンプルに5種類以上虫卵があることもあります！



病棟でケースディスカッション，マラリアの患者さんはミャンマーとの国境付近からで，ミャンマーのクラスメートが通訳してくれました。問題となる熱帯熱マラリアの薬剤耐性にはコンビネーション治療のトライアルが行われています

国際交流会のときの写真。
出来るだけ各国の服装を着て出席する交流会
でした

